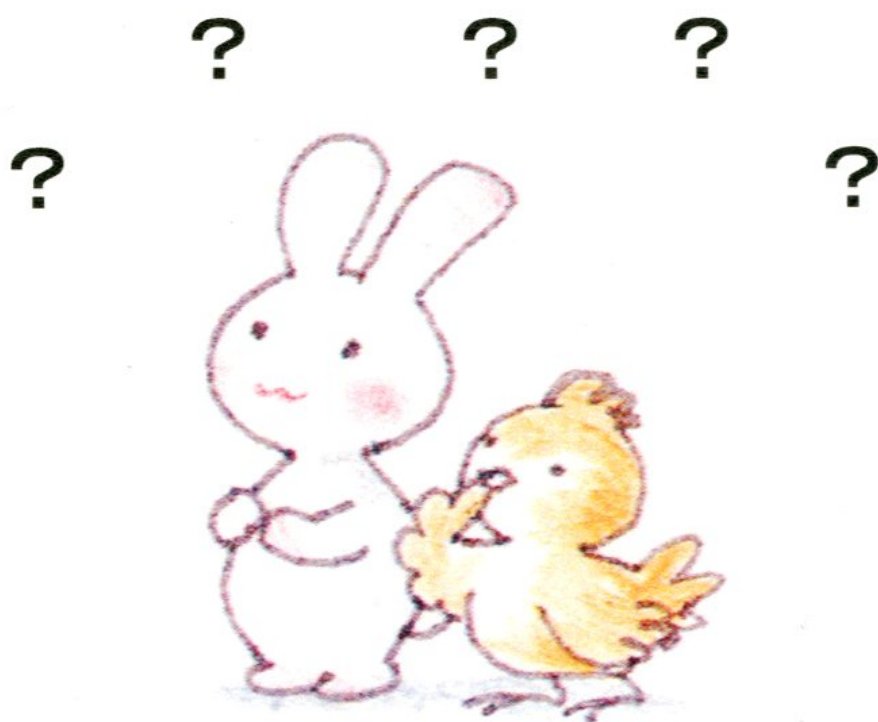


対話型鑑賞
(対話型ギャラリートーク)
ってなんだろう？



損保ジャパン東郷青児美術館



対話型鑑賞（対話型ギャラリートーク）ってなんだろう？

みなさん、こんにちは。全国各地の美術館で、ギャラリートークがさかんに行われていますね。

みなさんは、学芸員や美術作家の解説に耳を傾け美術鑑賞を楽しまれていることでしょう。

当館では、そのような専門家による鑑賞会の他に「対話型鑑賞会」を行っています。この鑑賞法についてよくあるご質問にお答えします。

●普通のギャラリートークとの違いは？

学芸員から作品や作者についての知識や見方、背景などをじっくりと聴くのが従前のスタイルです。一方、対話型鑑賞は、参加者が作品を見て、感じ、考えたりしたことを、他の参加者に話し、相手の考えを聴き、話し合いながら作品を味わう鑑賞法です。参加者同士が対話を通して共感し、作品の見方を広げ、深めて楽しめると近年話題になっています。これは、参加者主体の鑑賞法です。

●どこで始まったの？

1980年代、NY近代美術館教育部のアメリア・アレナス女史の提案が最初といわれています。

●ガイド役はだれなの？

絵を見ることが大好きで、子どもから大人まで、生涯にわたり絵を見る楽しさを伝えたい、と願っている当館のガイドスタッフ(ボランティア)です。

養成講座を修了し、実践を通して、参加者の主体性を尊重し、コミュニケーションの輪が広がるよう努めています。

●所要時間はどれぐらい？

約1時間。途中退出もできますので、ご気楽にご参加ください。

当館では2008年度より、小中学生と社会人を対象に「対話型鑑賞会」を実施しています。小中学校で出張授業も行っています。





絵の楽しみ方は星の数！
感じたことを参加者同士で共有できる
豊かなひとときをお過ごしください。

*** ご参加をお待ちしています！**